

気持ちを振り返る

松江市立第一中学校 二年 引野義大

ぼくは、学校は好きだ。友達がいるから。でも勉強は嫌い。なぜなら、めんどいし、やるきでらん、覚えれん、訳が分からんから。

僕は、学習障がいの中の書字障がいがあります。書くことに困難をきたす障がいです。授業中、ノートを板書しているうちにどんどん進んで行ってしまっ、勝手に進めんな、知らん言葉をだすな、専門用語を出すな、おいていくな、先行くな、わかりやすく言えという状態になります。ノートを取らないと意欲がないとか、勉強を真面目に受けていないから態度が悪いとか、そうやって評価されてしまう。僕だって、なりたい職業があるし、行きたいと思う高校だってある。でも、評価される世の中では僕みたいな人間は問題児扱いされて、置いてきぼりになる。苦しくて、悔しくて涙が出たところでどうにもならない事も知っているし、僕の考えを少し変えて、みんなと同じように勉強して、先生の言われるように動けば怒られないことも知っている。でも、それって僕だけ、僕じゃないみたい。評価されるから、いいように見られたいからきちんとなしといけない。って心の中では常におもっていても、自分を殺して、自分じゃない人を演じるのは本当に疲れます。そして、なんで、僕は、書字障がいなんだ、なんで、勉強についていけないんだ、なんで、みんなと同じ行動ができないんだ。なんで、制服のズボンが履けないんだ。といつもいつも心の中で葛藤しています。その葛藤中に、自分でも分かっていることを親や、先生、友達は、触れてほしくないことを注意してきます。

僕のイライラはピークに達します。今、やろうと思っていたのに、僕だって言ったらいけないって分かっているのに、やったらダメって知ってるのに、頭ごなしに言うなや。僕の話聞いてよ。僕には、人権がないのか。と反抗心をあらわにしてしまい、お互いが嫌な気持ちになるということを繰り返してしまいます。

5月の中頃から、分かっていることを人に言われ続けて、どうにもならない自分が嫌すぎて毎日、涙が出ました。6月の初め、何をやっても楽しくないし。すべてがいつも以上に上の空だし、肺がつぶされそうになって息苦しくて、しんどい日が続きました。そんな時、母から「もしかして死にたいか思ってる？」と唐突に質問されました。「死にたいとは思ってない。けどしんどい。」と心の中で思っただけで返事はしませんでした。口に出して伝えられたらどんなに楽になるかなと思ったけど言えませんでした。学校では、先生が、別室で給食を食べてくれました。何にも話したくなくてただもくもくと黙食を守って給食を二人で食べただけだったけどちょっとだけ嬉しかったです。

先生は、僕の両親に電話をして状況を話し合ってくれていました。両親は、かかりつけの医師にも相談してくれていました。そして学校では、僕に関わる先生方に共通理解を図ろうと、僕について話し合ったと聞きました。

学校で、僕が体操服のズボンで過ごしていても怒られなくなったのは先生が僕を見限っ

たわけではなく、その話し合いをされたからだと思うと、僕のことを、理解してもらえたのかなと思いきや嬉しい気持ちになりました。

問題児として扱われていてもこうやって近くの人に助けられて何とか心の闇から解放されています。僕は、一人じゃないんだ。人と違うけどいいんだ。ここにいてもいいんだって思えました。

ひとり、ひとり悩みは違うと思うけど、一人では悩まないで、自分のことを良く知ってる人が必ずいて助けてくれます。話はしなくても、そばにいただけで安心するし、心は軽くなってポジティブゲージが少しずつたまっていくから。